

地藏經和訓會
上

卷十一

和書門			
八	一	一	九
三	七	〇	九
冊	架	函	號類

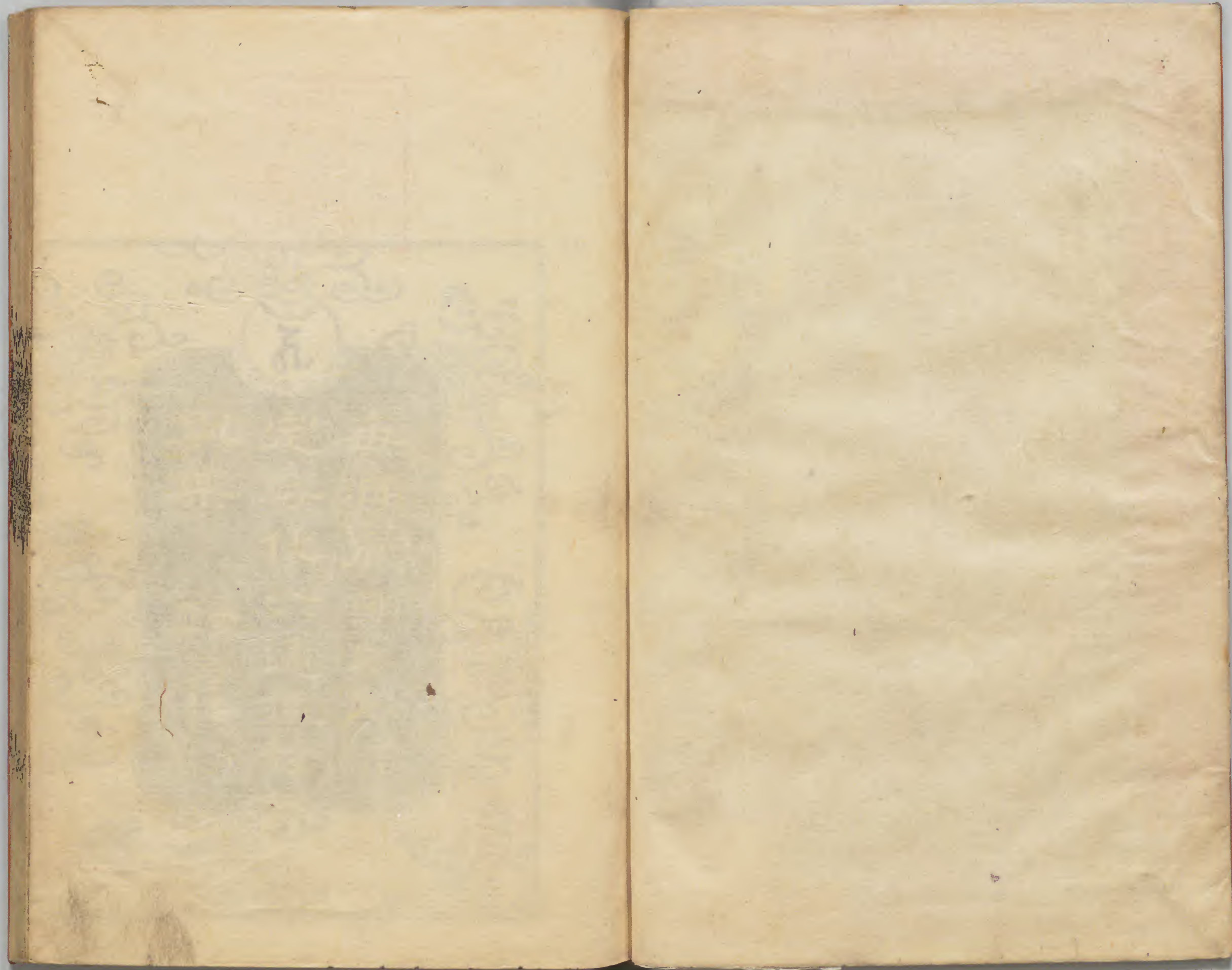
131

內閣文庫			
九	一	一	和
三	八	〇	書
函	九		
四	三	九	
架	冊	號	類

釋家十一

內閣文庫		
番號	和 18109	
冊數	3 (1)	
函號	193	131





日
本
書
院

瓦

每日晨朝入於諸
定旃化六道拔苦
與樂

五
瓦

五
瓦

四
文
部
口
三
山



也或經口川卷下



延命地藏菩薩像并童子圖



掌惡童子

掌惡童子

延命地藏經和訓圖會卷之上

蓬室有常 編述

佛說延命地藏菩薩經

謹^{つしん}む^んり^んん^んふ^ふ此^{この}御^{おん}經^{ぎょう}の^に世^よ尊^{そん}釋^{しやく}迦^か如^{にょ}來^{らい}天^{てん}竺^{しやく}法^{ぽう}羅^ら陀^た山^{さん}と云^いふ
 所^{ところ}ふ^ふ於^おろ^ろ一^{いつ}切^{せつ}衆^{しゆ}生^{じやう}の^をら^らふ^ふ御^{おん}說^{せつ}法^{ぽう}あり^り太^{たい}衆^{しゆ}大^{だい}集^{じつ}十^{じゆ}輪^{りん}經^{ぎょう}
 の^の結^{くわつ}經^{ぎやう}あり^り大^{だい}衆^{しゆ}方^{ぽう}等^{とう}部^ぶなり^り故^{ゆゑ}此^{この}經^{ぎやう}小^{せう}尔^に時^{とき}世^よ尊^{そん}比^ひ大^{だい}
 乘^{ぎやう}無^む依^いの^の行^{ぎやう}と說^{せつ}む^むら^らと云^いふ。佛^{ぶつ}說^{せつ}と^と佛^{ぶつ}の^のと^と訓^{くわん}釋^{しやく}迦^か
 牟^む且^じ佛^{ぶつ}の^の真^{まこと}說^{せつ}あり^り餘^よ人^{にん}未^ま了^{りやう}の^の談^{だん}あり^り是^{こゝ}と讀^{よみ}是^{こゝ}と聞^き
 者^{もの}の^の信^{しん}心^{しん}と生^{なま}む^むらん^んが^がら^らふ^ふ佛^{ぶつ}說^{せつ}を^をた^たむ^む九^く經^{ぎやう}小^{せう}并^{なら}諸^{しよ}天^{てん}人^{にん}

化人の説ありて此御經のありては延命と命と
延と訓を經文よりて釈曰略して二の義あり一の佛性ふ
約して号とて二ツの井の功德ふとて名を得たり初佛
性ふやるとして此心のより不生不滅ありて常恒不変なるん
夫の一念無明の流六塵の風ふ鼓りて苦海の識浪天小漫
ろふ於て種々の業とては六道ふ輪轉して短命無福の報
を受る然るふ此菩薩の真ふ無生の理ふ達して分段變易の生
死と離れ無漏法身の慧命と得たりが思諭が阿弥陀佛と受
量壽佛と唱ふ如く此井の壽命久遠無量なるとゆへ如此
身二の功とて隨ふと此井ふ依一給名禮拜一供養する

者に彼業報と轉じて其壽命と延ふ故ふ十種の利益とあ
るのづゝ身四の文ふ壽命長遠と是を誠ふ延命の尊号に有
為無為ふ通じて豈たのりかや地蔵とて地の蔵と訓を經文
ふ依て諭めく名と得たりと地とるの金光明經ふ曰此地深と
と十八万由旬下ふ金の沙あり又下ふ金剛地ありと云と去ば此井の
大智大願大力堅固不壞かると諭が金剛地の如百子の魔軍と
動ずるとして一切の外道も破ると得たり又夫大地の五岳の高
も載り落入るとて四海のうらも湛へて洩る然のごく此
井の大慈悲忍力在りて五道罪障の山とも愍と捨るとては生死
生死の海とも導とて淨けむ勇猛精進ありて更ふ退轉して

此經の心摧破と云ふ故に地持と号く是なり又
 截と云ふと論へ長者の宝截と押用とて普く四方より来
 者よ施す如く又大地の万物と生ずると無盡蔵
 の如く仍く此并ふ帰依する者二世の願望成就せむと云ふ
 此經の財宝盈溢又大菩提と證する等と云ふ尚説つと事
 云と長く略す菩薩とて梵語の訶なり具ふ菩提薩埵
 と云ふ翻譯なりは大道心成衆生とて大道心と云ふ上の
 菩提の果と求む一切衆生と化度し成就せむと云ふ常
 と云義なり所謂如来の金言古今かたば此故に經となぐる
 因ふ又或人曰る經と以偽經なりと云ふ説め其真偽委ふ



地藏并伏賢僧都
 法羅陀山小伴のり圖

聞く人云と云り答て曰此延命
 經の貞元録又八家秘録をよ
 んと云ふよるよるの
 然も其偽經よあ
 由未の薩州の亮汰祖と云
 辨ず既ふ根末の覚鏝上人が
 地持の式よ毎日晨朝入諸定
 の文と目白古来の高德と云
 信ずると斯の如く殊不空三
 截の訳經なりと云ふと高野

大師の將末々々人々予此頃任生地蔵の縁記と拜すす爰あふ
本願大僧都ハ弱冠じやくわんのときより地蔵井ぢざうゐと持尊ぢそんとて行任座卧ぎやうぢんざわ
も彼本誓かほんせいと念ねんト顛拜てんぱいも悲願ひがんとてんらるらび毎まふ當寺たうじの
本尊ほんそんふ目前もくぜんふ冥夢めいむと感かんトんゆんままううと是度々しどふ及およびり其中そのちゆうふ
不思議ふしぎ事こと一いつなるら地蔵井ぢざうゐ直ちやくふ快賢僧都くわいけんそうとと法羅陀山ほつらださん中ちゆうふ御ご
引導いんどうめを音釈おんせき迦大師かだいし此山こさんふと二万二千にまんにせん人の比丘衆びきゆうしゆう三万六千人
の并衆へいしゆう一切諸天いつせつしよてん及び諸龍夜叉人しよりゆうやしやじん非人等ひにんどう金輪銀輪こんりんぎんりんの諸輪王しよりんおう
ホと十方じふせうより群集ぐんしゆりり此延命地蔵しえんめいぢざうと説とくく儀式ぎしきと
拜見はいけんありりるるとと門身もんじんの琳嚴禪師りんげんぜんしふ具ぐふ語ごりりふふるるふふ志し説せきか
らんらんや例れいと天公てんこう大師だいしの三昧さんまい發得はつとくののとと靈山りやうざん法華ほつがの大會たいかいととままの

大廣智不空三藏沙門奉詔譯

大廣智だいくわうち不空ふくう三藏さんざう沙門しゃもん此御經こごきやうと翻訳ほんやくする僧そうの名ななり
大廣智だいくわうちと代宗皇帝たいしゆうてんていより賜たまふ勅號ちやくごうあり其德そのとくと稱しょうして大廣
智ちとと大興善寺だいけいぜんじ或大辨正おほひはんしやうとと不空ふくうハ金剛こんごう号ごうなり三藏さんざうととハ
經律論きやうりつろんふふ通つうじじたる人ひとと稱しょうしてしてるるなり沙門しゃもんととハ此こハ勤
息きんと翻譯ほんやくす是衆善しやうぜんと勤行きんぎやうハ諸惡しよあくと止息しきつするの謂いなり
奉ほうとと美みととりりととめめ詔譯しよくやくととハ詔しよくハ上命じやうめいあり帝王ていおうととの

仰と譯ハ天皇の詞と梵語と人々と中華の辞ふ直はと
 中譯ハ諸経ハ皆梵語あり中華に通じ故中華の詞ハ
 翻譯ハ人々と人々と入り近ハ大廣智不空とい僧ハ此經ハ中
 華の辞ハ翻譯ハ人々と人々と此ハ唐土北邙山と云所ハ大
 蟬蛇あり樵夫牧士のハ往々是と見らハ蟬蛇首とよハ
 丘陵のハ夜ハ常ハ露の氣と吸ハ居ハ或ハ此ハ不空沙門
 人ハ人のハ語ハ我ハ我ハ惡報と受ハ和尚ハ人
 化度ハ願ハ我常ハ思ハ河水と翻ハ洛陽城と落
 入ハ我心と快ハ欲ハ人ハ三截此蟬蛇の為ハ
 皈戒皈依佛皈依と授ハ因果の道理と人ハ人ハ曰ハ汝

前生ハして瞋恚讒賊等と
 以ハ故ハ今蛇形と受ハ惡
 毒の性と感ハ吾ガ力
 何と及ハ人ハ併ハ
 吾言葉と信ハ此身と
 捨ハ曰ハ後ハ至ハ推
 子牧童彼ハ行ハ見ハ
 巨蛇洞の下ハ死ハ其
 臭ハ數十里ハ及ハ
 其高德ハ宋の高僧傳



小見^{こみ}る^る仁王^{におう}經^{きやう}菩提^{ぼだい}心^{しん}論^{ろん}其^{その}外^{がわ}諸^{しよ}經^{きやう}と翻譯^{わやく}す^すと收^{しゆ}挙^{きよ}す^す
當^あく^くバ^バ此^{この}延^{のび}命^{いのち}地^ぢ持^ぢ經^{きやう}も其^{その}中^{ちゆう}の一^{いつ}なり

柳^{やなぎ}地^ぢ持^ぢ井^い其^{その}願^{ねん}力^{りき}堅^か固^こや^やと能^よく^く惑^{まど}網^{あみ}と断^つる^るも故^{ゆゑ}密^{みつ}号^{ごう}も
心^{こころ}悲^{かな}願^{ねん}金^{こん}剛^{ごう}と申^{まを}す^する^るも不^ふ思^し議^ぎ神^{しん}變^{へん}の威^い力^{りき}と以^{もつ}て種^{しゆ}々^々身^みと
分^わり^り六^{ろく}道^{だう}四^し生^{せい}と各^{かく}度^だし^しる^るも或^{ある}は持^ぢ地^ぢ井^いと現^{げん}す^する^る法^{ほふ}
華^けの會^{かい}座^ざふ^ふつ^つる^るも觀^{くわん}音^{いん}普^ふ門^{もん}の利^り益^{えき}と稱^{しやう}嘆^{たん}し^し不^ふ休^{しゆ}息^{そく}并^{へい}
と顯^{けん}す^する^る阿^あ彌^ぢ陀^た經^{きやう}の不可^{ふか}思^し議^ぎ功^{こう}德^{とく}と聞^きく^く淨^{じやう}土^どの教^{きやう}
隨^{ずい}喜^ぎし^しる^るも善^{ぜん}人^{にん}清^{じやう}淨^{じやう}の家^けふ入^いら^らる^るも智^ち笑^{しやう}士^し并^{へい}と稱^{しやう}
して歡^{くわん}喜^ぎ微^い笑^{しやう}し^して是^{こゝ}と守^{まも}る^るも惡^{あく}人^{にん}不^ふ淨^{じやう}の門^{もん}ふ^ふつ^つる^るも
悲^い施^せ泪^{なみだ}薩^{さつ}埵^だと^とら^らる^るも哀^{あは}愍^み方^{ほう}便^{べん}し^して是^{こゝ}と守^{まも}る^るも

時^{とき}ハ^ハ六^{ろく}地^ぢ持^ぢ中^{ちゆう}華^け出^でし^しと^となり^り又^{また}ハ^ハ十二^{じふに}地^ぢ持^ぢと^となり^り若^しハ^ハ十八^{じふはち}地^ぢ持^ぢと^と
身^みと變^{へん}し^しる^るも^も六^{ろく}の^の身^みに^に本^{ほん}願^{ねん}經^{きやう}の集^{しゆ}會^{かい}品^{ひん}ふ^ふハ^ハ百^{ひやく}千^{せん}万^{まん}億^{いふ}不^ふ
可^か思^し不^ふ可^か議^ぎ不^ふ可^か量^{りやう}不^ふ可^か說^{せつ}無^む量^{りやう}阿^あ曾^{そう}議^ぎ世^せ界^{かい}の^の身^みと^と現^{げん}す^する^るも地^ぢ獄^{じやく}
処^{しよ}分^{ぶん}此^{この}地^ぢ持^ぢ井^い俱^ぐふ^ふ未^まく^く切^き利^り天^{てん}宮^{みやう}ふ集^{しゆ}る^るも^もと^となり^り
去^さハ^ハ此^{この}經^{きやう}文^{ぶん}や^や佛^{ぶつ}の身^みと現^{げん}す^する^るも或^{ある}ハ^ハ井^いの身^みと現^{げん}す^する^るも乃^{すなは}至^{いた}三^{さん}
果^{くわ}ふ^ふる^るも四^し生^{せい}五^ご形^{けい}と^と云^いふ^ふも^も是^{こゝ}に^に取^と謂^い六^{ろく}
道^{だう}結^{けつ}化^けの救^{きう}世^せ真^{しん}士^し二^に佛^{ぶつ}中^{ちゆう}間^{かん}の大^{だい}智^ち用^{りやう}士^しなり^り然^{しか}も^もバ^バ則^{すなは}ち^ち自^{みづか}
宗^{そう}他^た宗^{そう}と^との^の同^{どう}く^く信^{しん}敬^{きやう}し^し奉^{ほう}ら^らる^るも善^{ぜん}人^{にん}惡^{あく}人^{にん}と^との^の結^{けつ}縁^{えん}也^{なり}
が^がん^んや^や我^{われ}等^ら衆^{しゆ}生^{せい}歸^き依^いし^し奉^{ほう}ら^らる^るも^も此^{この}御^ご經^{きやう}ハ^ハ延^{のび}
命^{いのち}地^ぢ持^ぢ菩^ぼ薩^{さつ}地^ぢより出^で現^{げん}し^して大^{だい}願^{ねん}と^と立^たて^てる^るも亦^{また}時^{とき}世^せ尊^{そん}ま^ま我^{われ}

滅度の後未來惡世の罪苦の衆生と大士不付囑しうみの
侍相と説地蔵井の廣大無辺の功德と佛身阿難尊者記
録了書なり

如是我聞一時佛在佉羅陀山

如是我聞とい何もの經文も發且不用の詞なり是は一
部の經ハ阿難尊者まののり佛より聞しといと一時
或と云云なり。佉羅陀山とい梵語なり委し佉羅陀
帝耶山といり翻譯して驟林山といふ十宝山のといひ佛
とい梵語なり翻譯しハ覺者といふなり和名保止計之

是ハ釋迦牟尼佛佉羅陀山とい道場ふ在しと云云なり

與大比丘衆萬二千人俱

大比丘衆とい釈尊の弟子達なり。大とい大衆の中ハ臘徳
あり。大小大障礙と断大人小敬る故ハ大とい比丘とい淨
乞食と名附或破煩惱と号け或ハ淨持戒と名け或ハ能
怖魔と名づ。比丘とい又又四つの義と兼る。一は身
一淨乞食とい諡ハ貪る心なく五種の邪命と離れ慈悲清淨
ありと批鉢とい命と養ふ身二ハ破煩惱とい心修行し
て九十八使の煩惱等と破る身三ハ淨持戒とい二百五十戒と能

持つ身四小能怖魔とい若人出離と求むるが故小眞寶の出家す
まの魔王の宮殿をいづり我眷族すめくかへんよと恐まこ
源空上人のうふ

衆萬三千人俱とい衆僧のまけり又僧伽といふと一萬二千
人といふはじ大比丘衆の數のことあり其餘の僧衆といふと知
る。俱といふとい義めて俱小如來の却說法と聽聞すと云
菩薩三萬六千人俱一切諸天及龍夜叉
人非人等金輪銀輪諸輪王等從十方來

案ずる小是まで通序なり此經の別序なり。菩薩といふ義も
前小註す。一切諸天とい欲界の六天色界の十八天無色界の四天と云
かろ。龍とい難陀跋難陀等とい此難陀とい此歡喜と翻譯
す跋難陀此小善と翻譯す是兄弟の龍王とい常小摩竭提
國と護す雨の澤といと以て國小飢羊を瓶沙王羊毎小大
會と為百姓皆歡喜とい小從く名と得る此弟と賢喜と
云此二人の兄弟善く人の心小應とて凡條と鳴る雨塊と破る
初め人喜しち後のの性も又賢なり是喜しち賢なる故小以
と名とい夜又とい此小勇健と翻譯すといと訓せり西域
記小虚空の中小飛りける鬼なりといり又餘類と示る乾闥婆

是は天帝の衆人なり地上の十室山の中ふ住とぞ阿修羅の魔
王なり大海の底須弥山の側ふ住とあり迦樓羅の金翅鳥といふ
大鳥より兩翅相去度三百三十六万里頭ふ如意珠ありと法苑珠
緊那羅の帝釈の系竹の衆官なり人ふ似く人ふあり頭ふ角
ひつらあり依く疑人といふ是人が人ふありぬと疑ふ故ふ又疑神と
書き摩睺羅迦譯すは地龍といふ腹行とて腹と以て行蟻の
類なり是まごとと八部衆といふ人非人といふ八部の結の辞を天龍
以下人ふ似く人ふ非る者道も其機ふ随ひ丈夫の形と現れ未
て御説法と聽聞する故ふ人非人といふぬ此兩經の八部衆と
略して諸天龍夜叉の三部と挙ぐ餘類と示せり故ふ諸天及

ひ龍夜叉人非人等といふ等といふ此はひ一ふあり故ふ等といふ金輪
銀輪といふ金輪玉の須弥の四洲の主轉輪聖王なりこの王世ふつぐ
うへに七つの寶出生け其中金の輪寶ありて王命ふ随ひ東方
より始りて南西北方とぐる行王の跡ふ随く諸國の王とな
びて十善戒といふ政と施すといふ此輪室のこころは一丈四尺有て
千の輻ありといふ銀輪玉の北極のどのどひく餘の三州といふこころ
輪の輻も七百五十ありといふ白く赤の輪室なり銀輪といふ諸
輪玉といふ銅輪玉の北洲西洲と除く余の二天下ふ玉より洞の輪室
みして五百の輻ありといふり次ふ鐵輪玉の南閻浮洲のこころ司る
其輪室くくつと二百五十の輻ありといふり以上四まんといふと名

其補給我言者

づ又ハ福德多クハ財輪王トスリ又軍輪王トスリあり軍とぞ
して天下ト威服す佛滅後の阿育王の如し是なり。等從十方
來トハ等ハ此諸の輪王達等從十方來ト東西南北四維上下
の十方後來トスリハ蓋世尊不可思議神通の威力ト以
て不量の世界ト感動トて撰縁の衆生の毎く来リて聽聞す
る変なり

爾時世尊說是大衆無依行已

爾時トハ其ト云義少ク將小經ト説んとする時なり是より
御説法トて聽衆の撰小當法ト授ムハ正宗分トスリ

世尊トハ如來の十号の二カ成實論ハ曰壹如來二應供三
正論知四明行足五善逝六世間解七無上士八調御大夫九天
人師十佛世尊佛トハ此ハ覺ト譯すナリ自覺悟ト又
能他ト覺悟トハ此ハ佛ト名づけテ斯の如く九種の功德具
足ナリハ三世十方世界の中ハ尊き者ハ故ハ世尊ト号クトハ説
是大衆無依行已トハ此大衆トハ菩薩の大根撰トスリ
大果ト得ルハトハ牛の車の重ト引ク以遠ク所ハ
ガ如ク故ハ此ハ大衆ト名づくトハ無依行トハ十輪經の第
三品ト無依の行ト名づく是ハ佛惡業の品ト説クハ惡行ハ
よハ行ト名づけテ制スルハ又第四品ト有依の行ト名づく是ハ

也成經口

善業と説くは是ふより行せしと教へたるなり斯の如く大衆の法門と説くは世より此經と説くは是れを以て此御經と大衆十輪經の結經なりといふ

時有帝釋名無垢生白佛言世尊我欲護世若佛滅後法末衆生當何拔濟

此段の帝釋末法の衆生のあふ濟度の方便を問うてと説きたまふなり時有帝釈名無垢生白佛言といふは時有帝釈ありて名と無垢生といふが佛小白と言ふ訓とありて帝釋といふ天竺の歌迦提婆因達羅といふ唐の能天帝といふと則ち是

切利天の主なり。無垢生といふ蓋しは是帝釋の別名なり。この帝釋の千種の名ありといふ此無垢生といふが世尊は我世と護らんと欲する若佛滅後の法末の衆生はいつくして苦悩と悩と樂と得ずしむと問申すに答はる。世尊といふ釋迦如來といふ我といふ帝釋天が自稱なり。護といふは訓と推護の義なり。世は世間と云若いりるなり。佛滅後といふ釋尊御入滅後といふなり。法末といふは佛法の末なり。とて義なり。曰正法一千年像法一千年末法万年なりといふ此の法の末法の衆生の煩悩惡業轉く重なるより邪法まかり盛んありてなり。正法と勸る人ありて還く是と誹謗す斯の如きの衆生の決定

三悪道さんあくどう小落入おちりつ無量のむりやうのらくみと受うるらんがらてが済すまん
とらう若帝釈わかにんのこの同どうらうらいらうら地蔵井ぢざういの利益りやく末法まっぽうのま
小おのら台たいのらとらとらんや天帝てんていの慈恩じおんままとと深ふかくく其
恩恵おんけいととひひらら地蔵井ぢざうい小お帰依きゐせせんや衆生しゆじやうととのらく
の人ひとととららぬぬ。秘術ひじゆつとといいぬぬととすすとと訓しんとと苦くととぬぬとと樂らくと
與あつつるるの義ぎななららるる。

佛告ぶつこ帝釋ていじやく有一いち菩薩ぼさつ名曰なひつ延命えんめい地藏ぢざう菩薩ぼさつ

取父とつちちの讀よみみくく世尊せそん地蔵井ぢざういの功德とくどくと説とめめららんん佛告ぶつこ
帝釈ていじやくとと佛ぶつ帝釈ていじやく小お告こううくくとといいととああてて佛ぶつのの則すなはちち世尊せそんとといい

帝釈ていじやくののとと取とりり小お註しゆすす一いち菩薩ぼさつとと延命えんめい地蔵井ぢざういの御おん責せきかからら此こゝ
井いの恒沙ごうさの菩薩ぼさつの中ちゆうに於おけけたたひひりり撰せんとといいせせららみみ此こゝ処ところ
むむかかくくああららぬぬ悲願ひがんの餘よの井いににああららぬぬ未世みぜ有縁いうゑんの薩埵さつたかかららこと
と爰こゝに焼鉄しやうてつの地蔵尊ぢざうそんと申奉まをさららぬ其灵驗そのれいげんの灼然しやくぜんと尋たづねねふ
往古いやく奥州おくしゆう岩城いわぎの城主ちゆうじゆう結城むすぎ判官はんくわん正澄せいじやうの二子にこ右邊みぎへ太郎たろうと申まをせせと
同国どうこく武川ぶせん對馬たいま守まもりりががああららぬぬ子こと成なりり對王たいわう丸まると号なづかかれれ然しかららぬぬ天
喜てんぎ三幸さんしやく北条きたじやう頼時らいじ逆心さかみんと企こころ二國にこくと乱みだすす對王たいわう丸まるがが父ちちの正せいと彼か
一家いっかとと雖なららぬぬ逆心さかみん小お組ぐみせせば官軍くわんぐん義家ぎけ小お隨ずいくく終すまひひ敵てきの
とああふ害がいせせらられれ結城むすぎ一家いっかへへとと散乱さんらんししるる其時そのとき對王たいわう丸まるの母はは
遂すなははちちととああららぬぬ夜よの間まにに出で行ゆくく何國なにこくの里さとと當あららぬぬおおちち落おちち行ゆ

北浦糸糸新巻上



身の慙もも母御の道も病
 うつろふ身もろくろが姉弟の
 尚もろくろみよふ事の對王丸と
 幼事少く多病のうふ姉の安珠
 姫といふ外は使はるるも東と
 うて行程お悪人ふ内はこれ子波
 丹後の国境由良の湊の長者が
 ろ山掛大夫がうふ賣と因果も
 道理も辨まぬ無理非道の者
 かく泣くあゝと日を送る姉弟

目毎ふ百束の柴とくを又ハ遠と谷間へ水と汲せがごと幼年の午
 業お及ぶととあつめが非道お責つうふとあゝ時ハ雨雪の用
 捨なく終日裏の樹木お縛り苦くあゝ其上大夫が邪欲う安
 珠姫の羨りうゆへ旋所へ價百貫ふうあゝ触利とくと得んと
 語り居ると安珠姫きくと大慈悲と對王丸といふとふ談人知
 るべ忍んく此家とおげうふ太夫大お怒りく對王丸お其行先と
 責問ど其言分と得せ給太夫はらりしと對王丸と捨るを
 とくお在火鉢引よせ火がごと火お焼目先お付つけ責問と對
 王丸い言分とせげ心中お今と限りの命をう此上ハ母の形見の懐
 の地藏井と頼奉ると一心お秘念を眼ととらとあゝ太夫

也成經口川

大に怒りて彼焼火著と對王九が眉間まゐに付立れつゝ其絶入ると思
人肉懷の地藏尊像ぢざうあらられ出でるらひ汝怖おそるらとねられ今世後世の
苦くるんん迫我まらせ汝まとね得えるらと有て對王九たいおうが焼鉄と苦
と代かりせるらふらふらふら焼鉄地藏尊しょうてつぢざうとを申奉まうるら昔むかしの丹後たんごの國
國分寺くにわけに安置あんじせられたるら今いまの浪花ななばなの高津たかづの里さと報恩寺ほうおんにありり此
尊像そんざう僅わずかふふ一寸いちじゆんありり在あらる其その焼やけの痴ち御ご眉まゆの間まに歴
とと今いま必かならず苦くると見みるら仰おほいしんがけつふ銘想ふ泪袖ふは
られ唯ただ疑ぎふとふんや

毎日晨朝入於諸定遊化六道拔苦與樂

前まへ文ぶんの續つづき毎日晨朝といひ日々ひび末すえ日ひのいづら先まへといふま
又また云いふ十輪經の選註せんしゆの日のづら時と晨朝といひ日ひづら閻浮樹えんぶじゆの
色いろみ映ずる時ときと晨朝といひ号なへと通とほ慧えの指さ歸かへられ出でるら十輪經じゆりんに
曰いはふ日のいづら晨朝こんしやうの時ときといひ諸しよの有情うじやうと成熟じやくせんと欲するらが為
の思おもふ疏河沙そが等とらなりり多おほくの定ぢやうに入定ぢやうより起とらるら普あま
十方じゆつぱうの諸佛しよぶつの国土こくどに於て一切いつせつ化けするら所ところの有情うじやうと成熟じやくはとり
定ぢやうといひ禪定ぜんぢやうのとここ梵語ぼんごの三昧さんまいといひるら故ゆゑに三昧さんまいと釋して三
正ただなり味に定なりとり善心ぜんしんと勤むらべ一所いっしょに住するらと三昧さんまいと名
づく念佛ねんぶつ三昧さんまい地藏ぢざう三昧さんまいなりり儀ぎは是なりり六道ろくどうといひ地獄ぢやく畜
生じゆう餓鬼がき人間にやう天上てんじやう終しゆう羅ら此こ六種ろくしゆと又六趣ろくしゆも書り昔周防しゆほうの國



一の宮とハ王祖大明神と白ハ官司王祖惟高とて久シク神家の
子孫なりと云ふも少年の昔より天性三寶小飯依して志深
く中も地蔵井と信じて奉り行住座卧小怠りなく称名更
小口業といハ時小二条の院の治世長徳四年四月十日小惟高病
と受て卧る小一七日と経て忽問絶して終小冥途小赴て曠
野の中と唯ひとり行る小道路と失ひ天小仰ぎて哀しく地
小依て叫り愛小僧の羨麗なりと六人列とて来現し
り小漸小歩よりり小と見奉る小手小錫杖と執りりあり或
香炉と持又念珠ととりて合掌し宝珠と持宝幡と持つ小梵
齒と持ちりあり斯く惟高小最小近とてひく問て曰汝知るや

我ハ是汝在生のと念念と奉る六地蔵なり六道の衆生の根柢
區々として作業も又別なり然るに則ち苦と受ると色々あり
故小懇小此等と濟りんとあふ百千の業報の衆生のうち我も又
百千の身と今も身と其苦の赴あり利益となす汝神
官の末葉なり我等小信ずると深し故小今示現する是
より旧卿小飯り具小六尊と造立奉り供養と遂よ你が居
所ハ南方なりとて指南しると思へ獲生既小三日と過る
とらん此度と語りて六人皆涙と流るる去ハ惟高も一字の
伽藍と建立して冥路小殊り奉るる六地蔵の像と造り奉
り本尊とぞ安置し奉る貴賤男女誠心とらり自他の善因

と植ると殊勝ふどあつらうと元亨釈書ふつへり同書小藤
 の經實の妻病中ふ六地蔵の尊像とつしむ臨終ふつと紫
 の雲窓ふんあやれ薫家ふつと合掌と西ふ向念佛して終る
 臨終の知識叡山の静養の着うらる袈裟ふ姉あつらう香
 てながく残りつとと是はつづの尊像と造りつと斯のど
 況や大悲と平日ふ歸依しつふあつとや其利益つとつと
 つづ遊化とつ遊行と化度つとつとつと。拔苦與樂とつ空海
 大師が寶鑰ふ曰大悲の故ふ樂とつと大悲のゆふ苦ととぬくや
 つと又佛地論ふ苦と拔と利益とつと樂果と施典すると安樂と
 つと真ふ罪業つとれ輩はつとふ此并と仰ごん信ごんや

若在三途於此菩薩見體聞名生於人或生
 淨土在三善道聞其名者得現果報後生佛土

若在三途とつ若く三途ふ存と訓る三途とつとつと
 訓る凡冥途へ赴くふこの道ありつと地獄へ赴く道なり是と
 火塗道と名づく業火さんふりへ東西洞然とつ二つふ餓鬼道
 へ赴く道なり是と刀塗道と名づく劔のと争道とつと又
 とつと等三あり畜生へむと道あり是と血塗道と号く
 呵訶を糸と号く流る血淋漓とつ斯る三途のちまふと見
 或は甚惡の形體とつ又其名と聞りのの忽らふ業報とつと

く人間天上しんじやうてんじやうを生なじ或あるは浄土じやうどよよくく人ひとととんん是これと見み體たい聞もん名な生せい於お
人天にんてん或あるは生な浄土じやうどと説とせりやうりやう。在ま三善道さんぜんだうといい三善道さんぜんだうふ在あるる
訓いんで三善道さんぜんだうといい善業ぜんごうの果報くわくほういいれ三善道さんぜんだうなり又また上かみの天上てんじやう中ちゆう
久くわん間下くわんげの阿脩羅あしゆら等らうぬりといいり此こ三善道さんぜんだうふああるる此こ并ならの御名みやな
と聞きるる在ま現在のごんげん善果樂報ぜんくわくらくほうと得えるる後のちに佛土ぶつどふ生なずずと
りり久くわん間下くわんげの佛土ぶつどといい浄土じやうどなり故ゆゑに大乗義章だいまうぎじやうふ曰いは經きやうの中ちゆうに佛刹ぶつせき
と名なづづけけ或あるは佛界ぶつがいと稱しやうし又また佛國ぶつこく又また佛土ぶつどといいと是これなり
案あずずるる三寶感さんぼうかん應錄おうえんろくふ曰いは簡別かんべつの金水縣きんすいけんといい所ところに劉侍郎りうじやうらうと
りり人ひとのり或あるは道ちゆうゆゆ一いつの杖しやうととりり多おほく其杖そのしやうの頭あたまに佛像ぶつざうと
ちりりれたららのの形體かいていときときごみごみひひるる侍郎じやうらう是これよりより帰かへり家いえ

の壁かべふよせよせけ置おぬ斯かくく年月としげつと経へるる侍郎じやうらう病やまむむるる
て死いず然しかるる胸むねのちりりりりぬぬままびび葬くわむりりせせべべと一日二いちにち
夜よと経へるる忽たちちちにに蘇生そせいくく涙なみだととななぐぐととななむむととれれいいとと際さい
して身みととななげげるるととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりり
いいととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりり
ととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりり
王わうららううららううららううららううららううららううららううららううららううららううららううららううららううららうう
何なにの因縁いんえんふふようようととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりりととりり
の施主せしゆなりなり彼かれとと濟たりりぐぐああままままららうう瘤王あそわうの曰いは業ごうままどどふ決定ごんぎやうせ
り何なに如にてて沙門しゃもんの曰いは我われはは一切いっけつ利天りてんふふとと世尊よせそんの附屬ふぶく也なり

北斎画考卷之十

うけく定業の衆生とす
 かなど侍即とせんや王のつら
 井の志願堅固ゆと勤む
 ると金剛山の如く則人間
 とぬら帰まづと時沙門
 喜び入るゝとき我年と
 とも道とたへて帰るらん
 と我沙門お申と曰師り
 づる故我となすけりぞ
 沙門の曰く我は是地蔵井と



劉侍即道と杖とく人の音

汝その途の中我と拾ひ歸りてふのやうふおきぬ此故
 ふ常ふ汝とまり念と忘まばといひ終つて見ふれば我も
 又斯のどく獲生よりかゝる慈恩と蒙りぬ昔の怠りしや
 まりと悔ひく自我身とせむと夫より彼より立おきたる尊
 像とこまふ粉色け御長け五寸まりと時々光と放りて侍
 即より信心とす終ふ我住家と寺となく地蔵院と号ひ
 とつり此うその縁なき助けらんと斯のどく本願經ふも
 一毛一塵も佛法の中ふおわく善度となげりのやうな夫と縁
 とて悪業とせり者とて少の心平き華はかあはす
 ひ助えとの廣大無邊の大井なり

何況憶念心眼得開決定成就

前文の續き。何況とい上の語と兼て義と出すと
辞なり。憶念とい心ふあつては是とぬけく憶念と
いふなり。心眼得開とい此文の意は是なり。此井の形體といふま
つ暫く印名と聞くと業轉し苦とまぬる何況常ふ心の
うらふ思ひ念とては是なり。心の眼といふは煩悩思想の
雲晴し般若智慧の目らしむるなり。然らば則ち菩提の大願決
定して成就見況や餘の願や只常ふ信ずることなり。おの
實其慈恩のうらふは是況なり。一向ふ信ずべし。

亦是菩薩得十種福一者女人泰産二者身根
具足三者衆病悉除四者壽命長遠五者聰明
智慧六者財寶盈溢七者衆人愛敬八者穀米
成熟九者神明加護十者證大喜提

此段の地藏菩薩の十種の福と得ては是なり。又
是とい亦い更に説くことなり。十種の福といふは是の訓
女人泰産といふは婦人の子を産むことなり。泰は安とよ
こ産の生とあるは義あり。女人の懐胎のとき月元く安

産うぶとこ此こゝ即すなはち誓ちかゆるまふは彼か子こ安やすのの地ぢ蔵ぞうめる腹はら帯おびのの地ぢ蔵ぞう
 々々とせふれ祿しよくとうけり昔むかしのの善ぜん寂じやく寺じのの觀くわん音おん地ぢ蔵ぞうの
 二ふた井いののふらわる商かう人にんのの妻つまののいふと二八はち月げつといふは彼か尊そん像ざう
 と駕しきとうけり願ねがひを忽たちちに光くわう明めいといふは其その夜よ何なにの
 難なんもぬくは善ぜん男なん子しと生りを悉しやくくは感かん通つう傳でんといふは書しよふとことり
 身み根こん具ぐ足そくといふは身み又また根こん眼がん耳じ等とうのの五ご根こんをり凡たゞ身み
 侍じのの不ふ具ぐといふは祈いのちといふは則すなはち具ぐ足そく圓えん滿まんすべくは具ぐ足そく
 とのりとりとといふは訓おとりを爰こゝ大だい和わ国こく故こ摩まのの渡わたりを入い処ところふは生なまれの
 皆みな目めのの女めあらうは宿しゆく因いんのの拙ちやくといふは悲かなしみのの佛ぶつと念どく々々
 あら僧そう是ぜといふは愍あはれを汝にのの罪ざい障じやくといふは者もののの地ぢ蔵ぞう井いののすこひ

うら若わ重じゆう業ごう遁とんといふは者ものののあらふは其その罪つみふは代しろといふはといふは教かうふは眞まこと
 ふ有といふは思おもひを夫おとこより一心しんふは地ぢ蔵ぞう井いといふは信しんといふは奉ほうりを毎まい日にち千
 遍へんといふは宝たから号ごうといふは唱となへりといふは地ぢ蔵ぞうのの木き像ざうといふは求もとめをひを明あけ
 且また願ねがひを或あるといふは童どうといふは大おほいな集あつまりを一ひと人の童どうのの聲こゑ
 女めおし申まをすは若わといふは面おも白しろといふは聞きせりといふは願ねがひを地ぢ
 蔵ぞう井いのの像ざうといふは女めといふは何なに程ほどをりといふは聞きせりといふはと
 永ながといふは春はるのの日ひ暮くれといふはといふはといふは本もとといふは地ぢ蔵ぞう尊そんといふは
 小こといふは童どうといふはのの古ふるといふは器きののつとといふは取とりを紙かみといふは
 てこ此こゝ地ぢ蔵ぞう尊そんのの日ひ頃ころ年とし久ひさしく持もつと奉ほうりを餘あまりを其その許もと志しの
 去さぐはといふは奉ほうりをといふは人ひとおし見みせりといふは奪うばつとといふはといふは能とくと

傍り含めりり女はうとほせ
 とそ取く探りては御頭と
 又て圓ゆるるは真ふそそ
 思ひよるるは大切お安置と
 人の物とほるは先眼明ふ
 なるせうい佛道ふ引入と
 めるると念誦とやふと
 秘蔵と年月と送りたるを
 ふびんあれ有と人々怪と思て
 誨女ふしうい其許秘蔵



うわ何なる物ぞと問はば女は地蔵井の像なり此御佛の
 衆生ふ縁ふりまりて諸佛より利益厚く重業の人と
 助ありんとの御誓なりと聞つ故斯信ずなりと入夫の有る
 妻と結縁のめ我あも拜ませるとより見ると井あり
 あらとて古器の頭のと死者なるはあまりのとふ一同ふわい
 々まの女大ふりう盲目とてらるるううと云は否とあ
 らは是の佛のあり如是のかりとて盲女つては
 女はとるき見んと思ふ一心の神に通じん忽然と両眼明ら
 ふなりなる見聞の人々驚敬の心と生とて共信入ふる
 眞實ふ念ずはばかど感應かうんや衆病悉除といふ

の病やまひもぐくのどくと訓あり諸病あま悉く除はらいと愁しう苦く
かうせむ支江州木本村長祈山淨信寺地蔵井ぢざういの縁えん詔みことの
曰いひく天武天皇白鳳十四年三月しんげふ當國とうこくの人民じんみん邪氣じやくきとらけく
あまこの牛馬街うしうまがいでふとつと死骨道しこつどうふとつ是これと悲かなしき
いかりり然しかふ七難しちなん即滅すなはちの文ぶんと唱なへ或あるは七鬼しちきの名なと書か
て門かどふらり若わかく病やま即消滅すなはちの文ぶんと信しんじ思おもひくの心行しんぎやうと
げまいらいれいも更さらふいらいない其そのといはし井いの神かみなることと感かん
ずる家やづい心しんとおむかりて祈いのりのも國民こくみんの災わざいと除のぞくと
らふい一夜いちや異い形ぎがたの者ものまとつて曰いひ善ぜん哉さいと汝なんぢふ當村とうむらの地蔵ぢざうは南なん
地ぢ坐ざ龍りゆう樹じゆ菩薩ぼさつふちのつと一切いっけつ衆生しゆじやう二世にじの利益りやくと得えてく

ゆんと目夜めやめらうなく尊そん戒ぎやうと彫刻てうこくして末世まうしふらく此こ
尊そん慈じ悲ひをいらいふと三國さんこくへいらいくと衆生しゆじやうと度とす汝等なんぢらいま
至心ししんふ地蔵ぢざうの名号なごうと三千七百遍さんぜんしちひゃくへんとあらば病やまとまぬらん我われのこま
泰山たいざん府君ふきんの使者しやかりとて失うせぬ人々ひとびと難なん有ありしく教あへのとく上う
下げ老らう若じやくふらくと此ま天災てんさいとのがいんらくら遠えん近きんの民たみましらくさる
敬きやうすとまく壽命じゆみん長遠ちやうえんといのらがらくと云い意いあらくと此井こゝいと
歸依きゐする者ものへ命めいもまさかがらくあらく元亨げんかう年ねん釈書しやくしよふ出いくと
釈しやくの蔵満まんといひく人ひとのころに三さん十じゆ三さんといはして死しすべきことと通照つうしやうといふ
相入あひいつげあらせしては愈いくと後行ごぎやうめらくらば地蔵井ぢざういの宝たから屋や
唱なへらるが三さん十じゆのとく中ちゆう風ふうの病やまと死しふらると然しからしふと天途てんどうといふ

地蔵并ありけりい願王ふらひてふらび獲生せり其のり
九十余年いさるれりといふ此のひ空しくうらや聰明者
慧といふ心のうらとて智慧といふ耳のうらとて聰といふ目
のうらとて明といふとてり本願經あり人ありて聖教と習ひ
覺へ衆生と化度せんと大願と起すといふも天性愚鈍ありて
忘易いふ人業障あり依りたり然らば香花衣服飲食諸
の持びの具と地蔵并供して清浄なる水と以ててぬく
一日一夜願とて此水との信心敬いの心とわけて五辛酒
肉邪娼妄語とつらて三七日のうら殺生と禁して一心地蔵并
の名号ととあへんべ則ち夢中願をせりといふ然て此

人覺るなりて聖教と一度もふらび千万生の中かた忘
るることなく智慧と得りてめんとなりてらば中古名高き祐天
大僧正ときこへも夫性愚鈍ありて聖教の一点も覺ゆらこ
とつらば是ふらりて武州成田山不動明王ふ祈願とら或
夜の夢ふ観とのしと見うひりより聰明慧智とてせりとい
終ふ天下の名僧とて仰りたり經より地蔵并中心不動ふ
して一體分身の御利益といふらる。財宝盈溢といふの賤室
の二字といふたうと訓も盈溢といふらる。とありらる
といふまる意なり是内ふ盈外ふ溢うと云なりといふ十輪經
ふ曰貪るるをいふらるの如意寶といふらる。是

なりしに中じう江加志賀の郡ふ截明大徳とる僧と
元来慈仁無我ふとまこと忍辱平の行人なりうりうり
身ふくく物とく一塵もなかり貪と救ひやれとや
まんと施願ひふとやまこと宿因の感ずる野やうんと
まごう心中ふありらたとい我まごころの業報とて負念の
身とけくも佛井の神通力あふ業障とてんせごんや
ところのつて常ふ福神とぞ初らるる或夜の夢ふ地蔵井
つげくのつて播磨の國皆木の郡の東北ふ深山あり汝じ
ふ行く見よと截明つげふ任せて彼の地ふのきく草庵と結
びらう夜の行法みごころとてかゝる夜夢中ふ僧きこり

龍の半ふ宝珠とあざり截明ふ向くつて汝宿習ふより
貪しきことあらんがも施門の願切なりが我の無價の宝珠と授
るごも其後富貴自在ふて心のまふ施とて行ど而して
一字と建立して地蔵井と安置し奉りてとてかく一向
おのい入るるも奉んよ何の願うかありごんや衆人愛敬と云
い多くの入ふあせしんるまらまらと云と即解由小路の地蔵井
といつて武士の妻となりて女ありと天驗記ふ未かしく出り
此井ふ帰依するもの人の寵愛とけ敬るごもを砂石集
お載り穀米成熟とら六五穀等成就し純熟するなり康
頼が宝物集ふとて西坂本ふ老女ありが五寸斗の井の像と

土井新井言老



菩薩
田と
老女
の音

未めく苜桶とりの物小入奉
 万の食物の生飯をまあし
 年とらふ此老女田と二
 かり持とるも子小作
 くらある年子ども遠方行
 六月頃まで作らざりし
 子とらふめく此尊像おし
 あられ人まきゆふ此田と
 つらふいづきあつらふ
 ら其夜の夢お汝早と田と

ほろろと悲むゆ我ほろろと
 うと見えく多きあうり明方
 作らべり田と夜の回小作
 我田とえと田皆々檀付う
 御助やうんと尊像と見え
 大悲の應用とらる者ら神
 かのつと神明の如護小預
 明正直の靈應護のまわ
 るとて井の取ふたいと諸の
 一乃至一人多人と御り斯

也哉經中州卷上

世

末世常セカイトコトヲ小百千鬼神ウチノヒヨクセンクワン日夜ニヒノヨふまもる受ウケと得エく惡アク受ウケとすと則すなはち
 其耳そのみみ小聞きこあつとつ小況ちか自諸横よこと受ウケんやと云いて是こゝなりあ
 と小日本こくにわの神國しんこくなり神かみの御心ごこころふ町ちやうんと思おもひをさすく慈悲じひと
 りもささじと地藏ぢじやう并とふ帰依きよすへく夫愛それ岩山いわやま大權現たけんげん及び日
 吉よしかの十禪師じゆぜんし春日かすひ第三だいなの宮みや大山おほやま大智たゐち滿まん井ゐ等らう是こゝ皆みな地ぢ藏じやう薩さく
 埵つちの垂跡たひせきなりめふ仰おほぎらち取謂とつゐ普現ふげん色身しきみの三味さんまいと得エく
 九界くうがいの迷情めいじやうと化度けだくえん隨類ずいるい和光わくわうの結縁けつ縁くと菩薩ぼさつの慈悲じひ
 の究竟くわうぎやうなり證しやう大菩提だいたひつじとらふ菩提ぼだいとい梵語ばんごや翻訳へんやくく
 果道くわだうとら果徳くわとく圓通ゑんつうす故ゆゑふ菩提ぼだいとらふなり證しやうめさしむら
 けりよらよ訓しゆんと菩提ぼだいといまきら得エくくえんとく此十種こゝろじゆしゆの

福の内ふくのうちくらの九種くしゆは有あ為ゐの福終ふくしゆうの十じゆめ無な為ゐの福ふくなりた
 ひ有あ為ゐの諸願しよげん成就じゆうじゆすも菩提ぼだいと證しやう日にちばも究竟くわうぎやうの悲願ひげんの
 ざうづゝとらふ二世じにせいの願望げんぼう満足まんじつすめらるくを真小まこと難有なんじゆうの
 御誓ごせいなりやふ

延命地藏經和訓回會卷之上 年

